

私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。

イザヤ51:1

2014(26)年 週 報

8月10日

第2聖日

3364号

「パウロのお願い」

(I テサロニク連続講演第17回)

聖言

兄弟たちよ。あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主にあつてあなたがたに指導し、訓戒している人々を認めなさい、その務めのゆえに、愛をもって深い尊敬を払いなさい。お互いの間に平和を保ちなさい。

テサロニケ I 5 : 12, 13

礼拝の恵み⑬ 第一章

第六部 礼拝のための力

礼拝のための力は神の第三位、聖霊である。

第二節 聖霊のみわざ

(四) 人と世との関係(ヨハネ一六ノ八〜一一)。

神の子を捨て十字架につけたことよって立証された。キリストに対するこの世の不信こそ罪なのであることを、この世に確証する為に、聖霊はつかわされた。神の義の要求がすべて、罪のためにキリストの身代わりの犠牲によって満たされたことを、キリストの復活によって神が示したもうた故に、聖霊は義を確証する。この世の君サタンが敗北し、裁かれ、今はただ刑の執行、火の池へ投げ込まれることを待つだけであるゆえ、聖霊は裁きを確証する。救われていない人への聖霊のみわざは、彼らの内に御言葉の説教よって、次のようなものを生じさせるのである。

a) 不信の罪人として彼らの欠陥の自覚

b) キリストの贖罪のみわざにおいて神の義が現れ、その証拠としてキリストの甦らせられて神の右に座すを悟る

c) サタンが裁かれ他のであるから、キリストを拒否しつつ死んだ者はすべて、サタンと同じ永遠の闇に入らなければ成らない。聖霊は罪人に自己の欠陥を自覚させ、キリストにおける神の救いを明らかにし、必ず裁きが行なわれることを警告する。その効果の保証されている今日、最大の急務は、聖霊に確証のみわざをなさしめるように御言葉を説くことである。(「礼拝」APギブス著)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話 : F A X (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年八月三日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「主の日の備え」 (一テサロニケ一五ノ五、六)

「あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもだからです。私たちは、夜や暗やみの者ではありません。ですから、ほかの人々のように眠っていないで、目を覚まして、慎み深くしましょう。」

(テサロニケ一五ノ五、六)

再臨は南海トラフ地震がくるよりもっと現実です。何時来ても不思議ではありません。しかも、抜き打ち検査のように予期しない時に訪れます。されは妊婦に陣痛があるように必ず訪れます。その時は御子も知らず、ただ御父のみ知っておられます。神様に再臨の近いのを教えていただき、備えをしなければなりません。再臨の第一の備えは信仰を持つことです。人間は神様に作られたものです。しかし、神の言葉を守らず罪を犯して神様から離れてしまいました。そのような私たちを救うためにイエス様をこの世に送ってくださったのに人間は十字架に殺してしまいました。でも、これを私たちの罪の身代わりとされたのです。これを信じた人を救われるのです。だからそのことを信じて信仰を宣言するために洗礼を受けてクリスチャンになることが必要です。それから子どもが生まれてお乳を飲ませるようにそのようにクリスチャンは、日曜に教会に来て礼拝をささげ、それから心の食べ物聖書を読んで祈りをするのです。そうするなら成長するのです。再臨の第二の備えは御言葉を実行することです。イエス様が昇天された後、二二〇人の弟子が一〇日間お祈りしていると聖霊が降臨して彼らは聖霊に満たされ、人々にイエス様のことを大胆に述べ伝えたのです。私だけが救われても嬉しいことはありません。家族、親戚、友人、全ての人と一緒に再臨を迎えたいです。今ノアと言う映画をしています。全世界が大洪水で滅びる聖書の物語です。これは、何を教えているかと言うと、滅びとともに救いの

道もあるということです。滅び全員が救われるように人々に十字架の福音を伝えなければいけません。

二〇一四年八月六日午後七時 祈祷会 山本牧師

「主の栄光が去る」(エゼキエル連講一七回)

「主の栄光が神殿の敷居から出て行って、ケルビムの上にとどまった。すると、ケルビムが翼を広げて、私の前で、地上から上って行った。彼らが出て行くと、輪もそばについて行った。彼らが主の宮の東の門の入り口で立ち止まると、イスラエルの神の栄光がその上をおおった。」(エゼキエル一〇ノ一八、一九) 一、一〇八 エルサレムを焼くための炭火を取った御使いの幻二、九〇二二 ケルビムと車輪は神殿から去って行った。

ここでエルサレムに火をまき散らすために遣わされた御使いが、九章で敬虔な人々の額にしるしをつけるために遣わされた亜麻布を着た御使い出会ったことに注意しよう。彼は最初敬虔な人々を破壊から逃れさせるために遣わされ、二度目はすべての人をさばくために遣わされた。この御使いは救い主のひな型である。イエス・キリストが最初にこの世に来られたのは、人の罪を背負い、救いをもたらすためであったが、二度目に来られるときは、すべてのひとのさばき主として、義をもって世界をさばくために来られる(使徒一〇ノ四二、一七ノ三一、ロテモテ四ノ一) パプテスマのヨハネはイエス・キリストのことに ついて「私のあとから来られる方は、私よりもさらに力のある方です。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。手に箕を持っておられ、ご自分の脱穀場をすみずみまできよめられます。麦を蔵に納め、殻を消えない火で焼き尽くされます。」(マタイ三ノ一、一二)と預言した。かれは二度目に来られるイエス・キリストのお姿を見ていたので

ある。それ故、今宣べ伝えられている福音を軽んじてはならない。それは生死を分ける厳粛な知らせである。それは「ある人たちにとっては、死から出て死に至らせるかおりであり、ある人たちにとっては、いのちから出ていのちに至らせるかおり」(コリント二ノ一六)。エゼキエル一〇ノ四は主の栄光がケルブの上から上り、神殿の敷居に向かうと、神殿は雲で満たされ、また、庭は主の栄光の輝きで満たされた。非常に荘厳な光景である。ところが一八、一九節では、主の栄光に包まれたケルブムが神殿の敷居から上って内庭を出て行き、外庭の東門を出たところで立ち止まった。主の栄光が神殿から出たのである。神殿は主の栄光も臨在もない無用の長物と化してしまった。しかし、ケルブムが東門の入り口で立ち止まったのは、いかに偶像礼拝に満ちた神殿、御自身に背き続ける町であつても、主がなおも愛しておられることを表している。「私たちは、互いに愛し合いましよう。愛は神から出ているのです」(一ヨハネ四ノ七)。

仮庵聖会

日時 八月一五日(金)

場所 本部教会 テーマ 終末における再臨と聖潔

午前一〇時「終末の前兆」(マタイ二四) 山本牧師

午後二時「聖霊の満ちし」(マタイ二五) 足達牧師

午後七時「再臨の前に建つ教会」(マタイ二五) 西田牧師

食事代 昼と夕 千円

本日中に予約をしてください。 係り 庄司姉 尾瀬姉